



今年4月18～22日の日程で飛騨市を訪問された新港文教基金会の皆さんと

台湾・新港郷との交流30周年 交流の原点を振り返り、友好関係の深化へ

2017年に友好都市提携を結んだ台湾・新港郷と飛騨市との交流のきっかけは、民間交流が始まりでした。草の根の交流は地道に続けられ、ついに今年30年の節目を迎えました。

長年続けられてきた民間交流は着実に実を結び、その後の友好都市提携という形でさらに深まった関係は、コロナ禍でも変わることなく継続され、今日を迎えることができました。

昨年からは再び、それぞれの市民や各種団体が両市を訪問し合い、高校生のホームステイも再開するなど、交流が活性化。今年は、交流30周年を記念した行事の開催が予定されています。

この機会を大切に、飛騨市と新港郷との交流の原点と経緯を改めて振り返るとともに、互いをいつくしむ気持ちを新たに、さらに交流を深める契機にしたいと考えています。なぜ交流が始まったのか、交流がどのような効果を生み出しているのか。これからどのように交流を発展させていくのかを一緒に考えてみませんか。



新港郷は、台湾南部にある嘉義県の最北端に位置します。面積は66.05 km²で、人口は30,094人(2024年1月現在)。農業が盛んで、主に稲作やトマト、パプリカ、トルコギキョウなどが栽培されています。また、地場産品には新港館などのお菓子、カモ肉のスープや燕餃子といった料理などがあります。盛大に執り行われる新港奉天宮のお祭りも有名です。

飛騨市との交流は、台湾の小学校の教科書に飛騨市のまちづくりが掲載されたり、特集番組がテレビで何度も放映されるなど、台湾の皆さんにも広く知られています。

これまでの主な交流のあゆみ

1994

台湾行政院文化建設委員会日本視察団が全国30数箇所と古川町を訪問。「木の国ふるさと作りの会」一行が訪台、飛騨古川のまちづくり事例発表。



1996

新港郷長、文教基金会董事長など台湾視察団が古川町を訪問。新港郷で「町をきれいにする運動」を展開。新港郷に「FURUKAWA STREET」設置。

2000
▼
2006

台湾の各種団体が古川町来訪。台湾のテレビ番組『城市的遠視・古川物語』が台湾やアジア各地で放送。2006年、台湾の小学4年生の国語の教科書に「飛騨古川のまちづくり」が掲載。



2008

台北市にて旅行代理店60社を集めて「飛騨市プレゼンテーション」を実施。

2015
▼
2017

2015年、台中市「古川祭台湾交流展覧会」で起し太鼓、きつね火まつり、獅子舞等を実施。



2017年、飛騨市長が新港郷公所、新港文教基金会を訪問。吉城高校生が新港郷でホームステイ。新港文教基金会30周年記念式典で友好都市提携調印。

2018
▼
2019

2018年、友好都市提携1周年記念式典、新港郷文化展覧会を開催。2019年、新港郷の林郷



長、新港文教基金会の陳董事長らが古川祭に来訪。新港郷の青年が飛騨市でホームステイ体験。

2020
▼
2021

2020年、新港郷がコロナ支援で布マスク5,000枚を市内小中学校へ贈呈。飛騨市・新港郷友好クラブを開設。

2021年、市内図書館や各振興事務所等飛騨市・新港郷相互写真展を開催。

2022
▼
2023

2022年、新港郷の新公所1階に飛騨市展示コーナー設置。



2023年、新港郷の葉郷長、新港文教基金会の陳董事長らが古川祭に来訪。吉城高校、飛騨神岡高校が新港芸術高校と姉妹校提携を締結。

新港郷・初代董事長の 陳錦煌氏にうかがいました



◆1994年の日本視察で古川町を選ばれた理由は？ また、どのような印象を持たれましたか？

当時、台湾でまちづくりの気運が盛り上がり、新港でも町を美化するまちづくりが始まったことで、日本への視察が行われました。

手配をされた台湾大学教授の陳亮全先生が「古川町が素晴らしい」と評価され、新港で開かれた台湾の第1回目のまちづくりシンポジウムに村坂有造さんらを招いて、古川町のまちづくりの発表を行いました。

翌年には新港の郷長をはじめ皆さんと古川町を訪れ、5日間ゆっくりと視察。きれいな瀬戸川や流れる水、そこで泳ぐ鯉が印象深かったです。

◆当時の交流で印象に残っていることは？

村坂有造さんや柳七郎さんが、まちの案内やまちづくりについてすごく詳しく教えてくださいました。特に柳さんは朝早くから旅館に来て、課題や解決方法、財政のこと、まちと祭りとの関係など、たくさんのお話を教えてくださいましたことに感動しました。

◆視察で参考になったことは？ そこで得られた知見をどのように生かされましたか？

まちの環境や景観の美しさを、皆さんが大事にして守っている姿、それを支える匠の技術や職人の精神を大事にして次の世代へ継承していることが参考になりました。

質素で厳かな古川祭が印象的で、台湾のお祭りにも影響を与え、派手さが抑えられるようになったり、祭りの後にすぐゴミを拾ってきれいにするのも古川祭から学びました。

◆これからの飛騨市に期待されることは？

今はネット社会なので、互いに学び合えることがたくさんあります。積極的に外の世界へ飛び出して、新港以外にも世界各国と国際交流をし、同じ課題があれば協力して解決していくことができると良いと思います。

台湾にも少子化や過疎化、都市と地方の格差、安全保障などの課題があります。協力して一緒に解決する道を見つけていきましょう。

出会いから常に交流をけん引してきたお一人、むらさき ゆうぞう村坂有造さんにうかがいました

■台湾の皆さんとの出会いと印象は？

最初は台湾の皆さんが日本全国の有名な町並みを視察される中、なぜ古川町を選ばれたのか、分かりませんでした。その後、新港の皆さんが視察に来られた際も、高山や白川郷には行かず、丸3日間古川町に滞在され、街並みやまちづくりの実態を視察されました。「古川町のどこを見られるんやろ？」というのが素直な疑問でした。

振り返ると、先人が育んできた美しい景観やまちづくりの考え方、古川祭の伝統・文化などが、新港の発展に必要なものと考え、真摯に学んでみえたのだと思います。

■交流を深めるうえで大切にしてきたことは？

新港の皆さんの「まちづくりを思う」真摯な姿、陳錦煌董事長をはじめ基金会の皆さんの思慮深い聡明さに心打たれ、交流時はその「おもてなし」に精一杯でした。

今もって「謝謝」(シェシェ)・「你好」(ニーハオ)しか話すことができませんが、「今しかない！これが最後！」そんな気持ちで、必ず相手の方の目を見ながら、言葉の意図を推し計ることを心がけていました。

■交流が古川町にもたらした効果は？

台湾公共テレビの1時間番組「城市的遠見・古川物語」

が古川町を台湾の全国区に押し上げてくれました。

また、飛騨市観光協会・古川祭保存会の皆さんの尽力で大成功した「古川祭展覧会」、そして友好都市提携。コロナ禍には応援メッセージとマスクをいただき、さらに絆が深まりました。

■今後、交流について期待されることは？

新港郷の皆さんは、古川町からの学びを活かされ、官民一体で稀に見る綺麗な町並み景観を整備されました。

激動・混迷する世界情勢の中、私たちは様々な閉塞感に苛まれています。新港の皆さんから気付かされた先人の知恵や努力、「ふるさと」の魅力と特異性を回顧することが必要ではないでしょうか。「まちづくり」は「人づくり」。年齢・性別を超越した交流へと広げ、次は私たちが新港の皆さんから多くの学びを得て、広い視野を持つ人材を育て、伝統や文化を継承し、「元氣な飛騨市の覚醒」につながることを期待します。



昨年、新港郷でホームステイを体験した
吉城高校3年 くらげ 倉家 るみさん



■ホームステイに参加した動機は？

飛騨市と関わりの深い新港郷をもっと知りたいという気持ちと、もっと広い世界を見て、今後の進路の幅を広げたいという思いがあって、参加を決めました。

■どのような学びがありましたか？

付き添ってくださった大学生の方が、私のつたない英語をしっかりと受け止めてくださったり、私がさみしくならないよう優しく話しかけたりと、すごく気を配っていただきました。新港芸術高校で授業を受けた時、大学生の方と離れたので少し不安でしたが、同年代の子たちが同じように話しかけてくれました。

英語はあまり得意ではないのですが、互いに「伝えたい」「分かってほしい」という強い気持ちがあれば、気持ちは伝わるんだということが実感できました。

■この経験を将来にどう生かしたいですか？

新港郷の皆さんから学んだ人との関わり方を、今後の学生生活や将来の仕事に生かしていきたいです。共通の趣味の人と出会い、LINE交換をして今もつながっています。また、皆さんに会いたいです。

新港郷の皆さんと一度でも交流された方からは「とても友好的」「訪問すると温かく迎えてくださる」という言葉が聞かれます。

また、台湾の学生ボランティアの皆さんの主体的で積極的に関わる姿勢に感銘を受ける方も多く、交流から学べることはまだまだたくさんありそうです。

今後、さまざまな機会を通じ、交流から学びや気付きを得て、互いを高め合うような関係を築いていきましょう。

30周年の今年、さまざまな事業が行われます

今年はずでに1月に新港郷の青年ら15名が飛騨市で研修を実施した他、3月には飛騨市役所本庁舎1階の新港郷展示ブースのリニューアル、新港文教基金会の皆さんを古川祭に招待するなどの事業を実施しました。

今後もさらに高校生らの訪台、きつね火まつりへのご招待、台湾フェアや市民ツアーの開催、小中学校でのオンライン交流と事業が目白押しです。

興味のある方は、ぜひ飛騨市・新港郷友好クラブに加わっていただき、一緒に交流を盛り上げましょう。

